

北村俊雄教授退任記念誌「To the Next Stage」 寄稿文  
(2022年3月)

内灘砂丘・大野醤油・海に見えるレストラン

金沢大学がん進展制御研究所 平尾敦

北村先生、この度は無事定年を迎えられますこと、謹んでお喜び申し上げます。また、これまで様々な形で、サイエンスに多大なる貢献をされてこられたこと、心より敬意を表したいと存じます。私は、須田年生先生の教室に属していたことから北村先生とは親しくお付き合いさせていただきました。北村先生は、常に、純粹に、サイエンスを楽しまれておられ、そのお姿をみて、私自身が大変楽しい気持ちになりました。

数年前のある日、北村先生から、「今度、北陸大学に呼ばれて金沢に行くんだけど、ランチ一緒にどう？」と連絡をいただきました。もちろん喜んで、とお返事をした際、何かご希望ありますかと軽くお訊ねすると、すぐに「海に見えるところがいい」と。市内には金沢らしい食べ物屋はたくさんあって、ランチの店をさがすことは難しくはないのですが、「海に見えるレストラン」というフレーズが唐突でやや困惑しました。カップルじゃあるまいし、おじさん二人で海に??という戸惑いもあり、これはもしかして冗談かなと思いつつも、さらにメールをしたところ、「砂丘に行きたい」とのこと。ええー、そんな砂丘なんか聞いたことないよー、と思いつつもネットで調べてみると確かに砂丘がありました、その名も「内灘砂丘」。なんと、猿ヶ森砂丘、鳥取砂丘に続き日本で3番目に大きいらしい。なんだか知らないけど、「北村先生、相変わらず楽しそうだな」と思いつつも当日を迎えました。

私は車でホテルに向かい、北村先生をピックアップした後、Google マップに導かれるまま行ってみると、「砂丘」なんて看板は何もなく、その代わり、なかなか海までたどり着かないような広大な砂浜が広がる「内灘海水浴場」がありました。あっちこっち行ってみましたが、どうもそこが「砂丘」のようでした。ふたりで波打ち際まで行ってみようと砂浜を歩きましたが、北村先生は、周辺の風景を見ては、これこれ、思いだしたぞ、と。聞けば、学生時代ご実家に帰省の途中、日本海側を回り、ふらっと砂丘に来たことを思い出したそうです。ああ、やっぱり北村先生、昔から自由だなと思いました。また、広い砂浜で心



地よい風に吹かれていると、北村先生といると自分もこういう自由な気分になれるなあ、と感じ入ったことがとても印象的でした。

その後、近くに 400 年前から続く古い醤油の町、「大野」があるのに気づき、車を走らせました。大野は、昔、野田、銚子、龍野、小豆島と並び、日本 5 大醤油産地の 1 つとされていたようで、古い町並みに風情を感じました。

最後に、「海が見えるレストラン・金沢」というワードでネット検索し探したフレンチレストランに。行ってみると、おじさんシェフ一人でやっている、ごんまりとしていながらも妙に垢抜けした何とも雰囲気のある素敵な店であったことに、二人で喜び、おいしいランチを堪能しました。そして北村先生は、「今日は愉快だった」と、さっさと新幹線に乗って帰って行かれました。



北村先生は、何でも面白がり、何でも喜ぶ心を持った素晴らしい方です。こんなちょっとしたランチにお付き合いするだけで、私にも小旅行に行ったような楽しい思い出を作ってくださいました。サイエンスは、どこに面白いものが落ちているかわかりません。北村先生のように、「自由に楽しむ心」が最も大事なことだと、これまでご一緒して何度も思いました。これからも、北村先生と一緒にサイエンスを楽しみたいものだと思います。